
1
OHZORA SHUPPAN
Young Love Comic
aya




世の中には
いろいろな
人間がいる
良い人
悪い人
ドン！
いって――ぇ！
テメェ！
どこ見て
歩いてんだ
え…
ぶつかって来たのは
そっちじゃ…
ああ？
ごくごく普通に
穏やかに
日々を送ることを
望む人
そんな人々の
暮らしを
おびやかす
人
そして
おいこれ
骨折れてんじゃ
ねぇ？
慰謝料
もらわねェと
なあ！
ぷっ
典型的な
チンピラの
恫喝
まだいるのね
アンタらみたい
なの
はあ!?


何だテメェ!!
私
片桐麻美(かたぎりまみ)の
場合は――
通りすがりの
者だけど
骨が折れたって
言うなら
病院に連れて行って
あげようか？
うるせぇ!!
すっこんでろ
この女(アマ)!!
クイッ
あ？
おっ
!
……
連れが何か？


じろ…
いや…
えっと
ビクッ!
目つき
ヤベェ…
デケェ…
これくらいに
しといてやる!!
だっ!!
どけっ!!
見せモンじゃ
ねぇ!!
うわあ…
捨てゼリフまで
チンピラ…
ドラマとかで
まっ先に
やられるタイプ
…
ふー…
何もせず
行ってくれて…
…よかった
ぽっ
もう!
麻美
ちゃん!!


お願いだから
危ないことは
やめてくれ!!
あんなヤバそうな
人たちに立ち向かう
なんて!!
無理
さっくり。


泣いてる…?
いかついのに
泣いてる
ざわ
ざわ


私だって
警察官だし
そう
私の場合は

子どもの頃から
正義の味方

悪を憎んで
弱きを助け

理不尽なことは
許せない

――そんな人間（タイプ）

いじめっ子

そして
選んだ職業は
警察官

――ということで
パトロール
お願いします

はいはい

非番なのに
お疲れ様です

天職だと
思ってる

お疲れ様
です！

も――

いつまで
いじけてんの
有樹（ゆき）は

だって
麻美ちゃん…っ


せっかく久しぶりのお出掛けなのにさあ！
悪者見つけたら僕のこと忘れて一目散なんだもん
今まで何度見失ったか
ちなみにこの男は幼なじみの有樹
この体格あの眼力で中身はかなりのビビリ
家が近所でいつも一緒だった私がずっといじめっ子から有樹を守っていた
185cm
わーでけえ!!
158cm
…また怯えられた……





人見知りでコミュ障で
目つきが悪いのは視力のせい

そんな有樹が甘えられる唯一の相手が私



だって有樹は

大切な友達だから

妹

はあ!?

バカなの!!?
お姉ちゃん!

それで付き合ってないって!?

何でそんなに怒ってんの?

毎日電話やメールして
休みの日には必ず一緒に出かけて!?

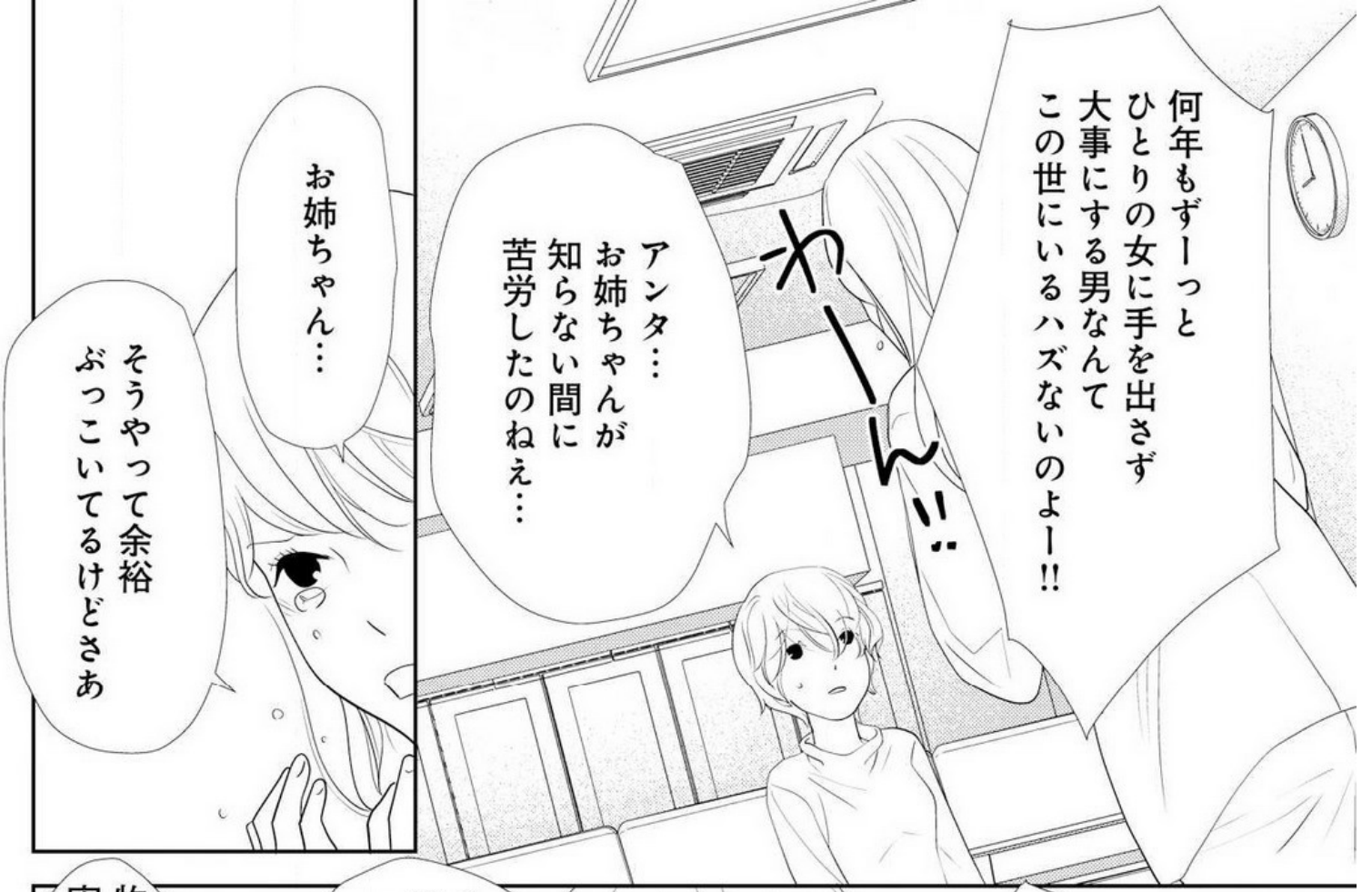
手繋ぎは?

しないよー
子どもじゃあるまいし

そういや昔は繋いでた
いつからしなくなったんだっけ

キスは!?


するワケ
ないじゃん
日本人
だもん
Hは!?
!!
するか
そんなコト!
私と有樹だよ!!
はあぁぁぁぁ…
お姉ちゃんは
男をわかってない!
合コンで出会った
その日に!
会話の流れで!!
その場の雰囲気で
付き合ってようが
なかろうが
あわよくば…って
考えてるのが男!
そりゃアンタが
付き合うのが
そういうタイプって
だけで
いーや!
ユキ兄
かわいそう…
かわいそう
って?
有樹だって
そんな気
ないでしょうに


何年もずーっと
ひとりの女に手を出さず
大事にする男なんて
この世にいるハズないのよー!!
わーん!!
アンタ…
お姉ちゃんが
知らない間に
苦労したのねぇ…
お姉ちゃん…
そうやって余裕
ぶっこいてるけどさあ


ユキ兄
女子人気が
けっこうあるん
だからね!
妹は2つ下
高校の時とか
秘かにファンって子
いたんだよ
よく見たら
イケメン!とか
物静かで
実は優しいとか!


その上 今は
人気絵本作家!
優しい物語を
あの強面が
描いてるのかと
そのギャップに
きゅん死に♥女子
急上中!
ピピピピピピ
SNS
チェック中
作家仲間とか
編集とか
周囲に女性
多そうじゃん!
油断してると
取られるよ!?
というか
あたしが欲しいわ!
近い近い
近い


いや…
えっと…
え――…？
…知らなかった
有樹ってモテるんだ
ピロン♪
今日は楽しかったよ
次の休みはいつ？
行きたいところあったら
教えてね
まあ
マメだしね
顔だって
すっきりと
整ってる
いわゆる塩顔
でも
付き合うとか
有樹が
Hなこと
するとか
まったく想像
できない


――私以外の女性の前では男らしいのかな
キスしたり抱き締めたり
あの逞(たくま)しい体で押し倒して
大きいけれど繊細な
あの指先で
――
ぞくんっ…
ドキン
やだ…
何ドキドキしてるのよ私
ドキン

変な想像しちゃって
有樹に申し訳ない
合わせる顔がない――

おはよう麻美ちゃん

…おはよ

今日はちょっとあったかいね

顔合わさないわけにはいかないんだよね

平常心
平常心

家は近所だし
私の出勤時間が有樹の散歩時間だし
避けるのも変だし

にこっ


何かあった？
えっ？
さっきからなんか…
おもしろい顔してる
！
おもしろいって！失礼過ぎ!!
ごめん 他に何て言っていいのかわからなくて
スッ
ぴいっ
でさー
ちょっとの変化に気付いたり
行ってみたい温泉見つけたんだけど 今度一緒に…
うん…
本当に？いいの…
うん…
当たり前のように車道側を歩いたり
さり気なく守ってくれたり
――


いい男なのは
わかってる
有樹はもう
小さくて弱い
男の子じゃない


大人の男で
私も
大人の女で
いつまでも
無邪気に仲良くなんか
していられないんだって
おい…
小型
クシー
わかっていて
でも
認めたく
なかった
有樹との関係を
壊したくなかったから

壊れて

もしも
離れて行って
しまったら…

甘えるような
あの笑顔を

さりげない
優しさを

私以外に
向ける時が
来たら――…

耐えられる
気がしない

私は

有樹のことを
こんなにも

いや
ないって

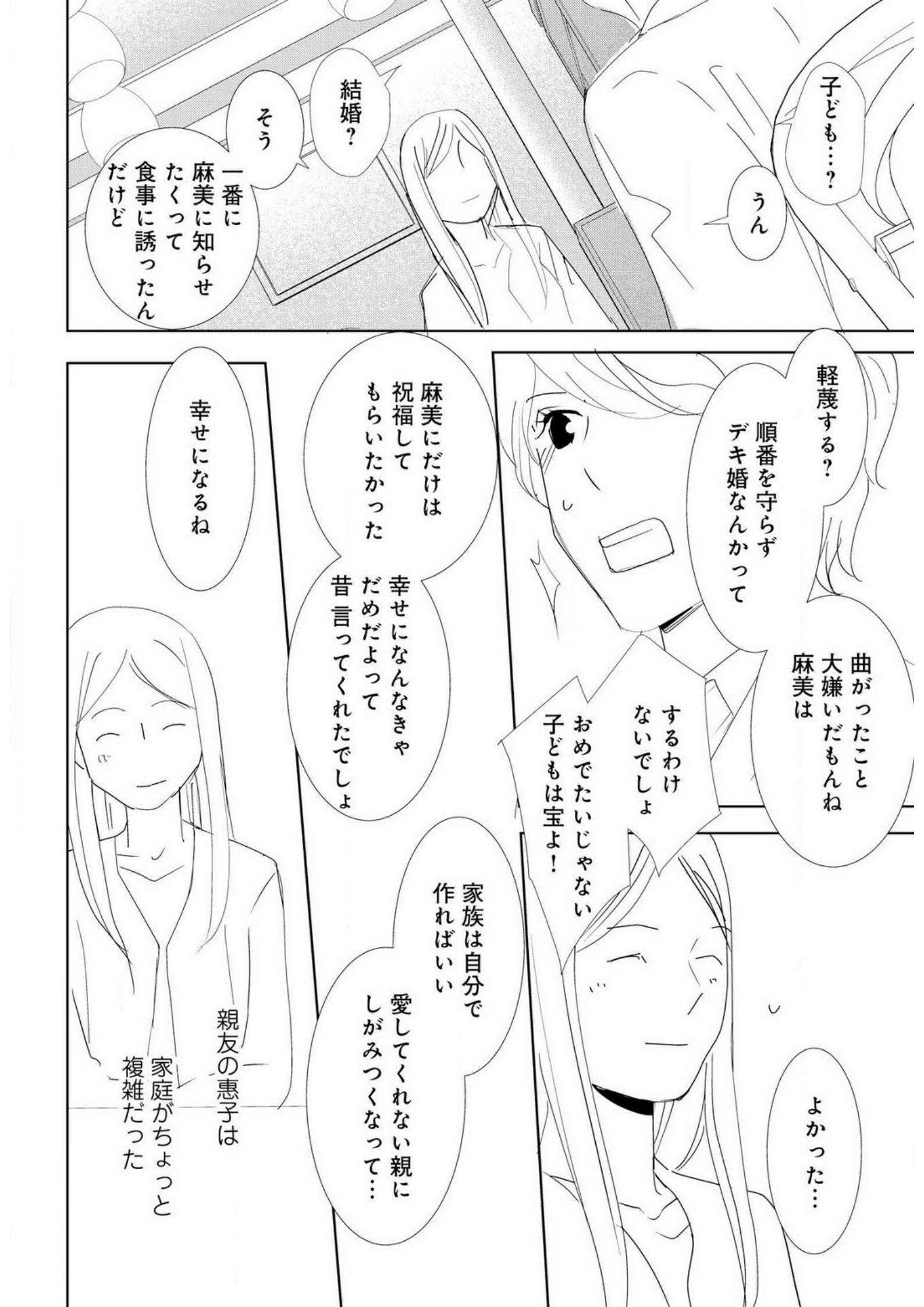
溺愛…？

そういやこの間の
同窓会
麻美は仕事で
来れなかったね

あの有樹くんが
麻美以外の女性を
選ぶなんて

めちゃくちゃ
溺愛されてる
じゃん


有樹くん
みんなにお酒つがれまくって
断れないもんだから
けっこうな量
呑んじゃって
のめのめ〜！
次オレな
いや あの
そしたらもう
しゃべる
しゃべる
麻美のこと
ばっかり
延々と
どんな話をこ？、
あんなに
愛されてるのに
まさかキスも
まだだったとは…
えーと…
どんだけ理性
強いのよ
有樹くん…
そういえば
恵子のほうは
どうなの？
こないだ
新しい彼氏
できたって
うん
子どもが
できたの
報告したら
喜んでくれて
結婚しようって
…


子ども…？
うん
結婚？
そう
一番に
麻美に知らせ
たくって
食事に誘ったん
だけど
軽蔑する？
順番を守らず
デキ婚なんかって
曲がったこと
大嫌いだもんね
麻美は
するわけ
ないでしょ
おめでたいじゃない
子どもは宝よ！
よかった…
家族は自分で
作ればいい
愛してくれない親に
しがみつくなって…
麻美にだけは
祝福して
もらいたかった
幸せになんなきゃ
だめだよって
昔言ってくれたでしょ
幸せになるね
親友の恵子は
家庭がちょっと
複雑だった

自分に自信がないような言動に

時に怒り励まして

守ってあげているつもりだったけど

強くなったんだな

自分で伴侶を見つけて

私も

自分の気持ちにちゃんと向き合わないと――

ピンポーン

いらっしゃい麻美ちゃん

ん！差し入れ！

あありがと…

あれ？お酒だ

呑みたい気分なの

付き合って

呑まされてしゃべりまくったらしいし


…って
短絡的かな
有樹の気持ちが
知りたいし
私が素面(シラフ)じゃ
恥ずかしくって
何も言えない
…
へー
恵子ちゃん
結婚かあ
いいなあ
有樹にも
結婚願望
あるんだ
そりゃあね
――
――今
誰との結婚を
思い浮かべた?
私?
それとも
別の誰か
そういえば
昔はよく
私と結婚するぅ〜って
言ってたよね
うん


その気持ち
今も変わってないよ

かぁぁ

——熱っぽい

目

う

そ…

そう



麻美ちゃんは？

麻美ちゃんは
どうなの？

僕のこと
——


ピクッ
どうしたの？
この頬の傷…
え？
ああ
は…
犯人が
振り回してて…
確保した時に
かすめて…
なでなで
ピタッ
…だから
イヤなんだ
刑事なんて
仕事…
麻美ちゃんが
傷つくなんて
許せない


お願いだから辞めて
っ
な…っ
何バカなこと言ってんの！
ちゅっ
有…
ちゅっ
痛い？麻美ちゃん…
え…


大丈夫…
…キ…
キス…
されて
…る？
（は！）
…っんっ…


ゆる
し
舌が
ちゅっ
ちゅっく
ちゅっ
しゃる
ん〜〜〜〜っ
ビクともしない
ちゅ
ちゅ
んっ
んっ
ちゅっ
頭がぼうっとする
力が入らない


とろん…
気持ちいい――…
？
もう
きゃっ
我慢の限界


抱くよ
麻美ちゃん
そんな甘い声で言われたら
拒絶なんてできない


ビクン
んん…っ
もっと聞かせて
可愛い声
んっ
あ


我慢の限界
ずっと
してくれてたんだ
――我慢
こうしたいって
思ってたんだ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
うれしい――
あ…っ



これ

Hってこんなに
恥かしいの？

何もかも全部
見られて

触れられて

なめられて
――



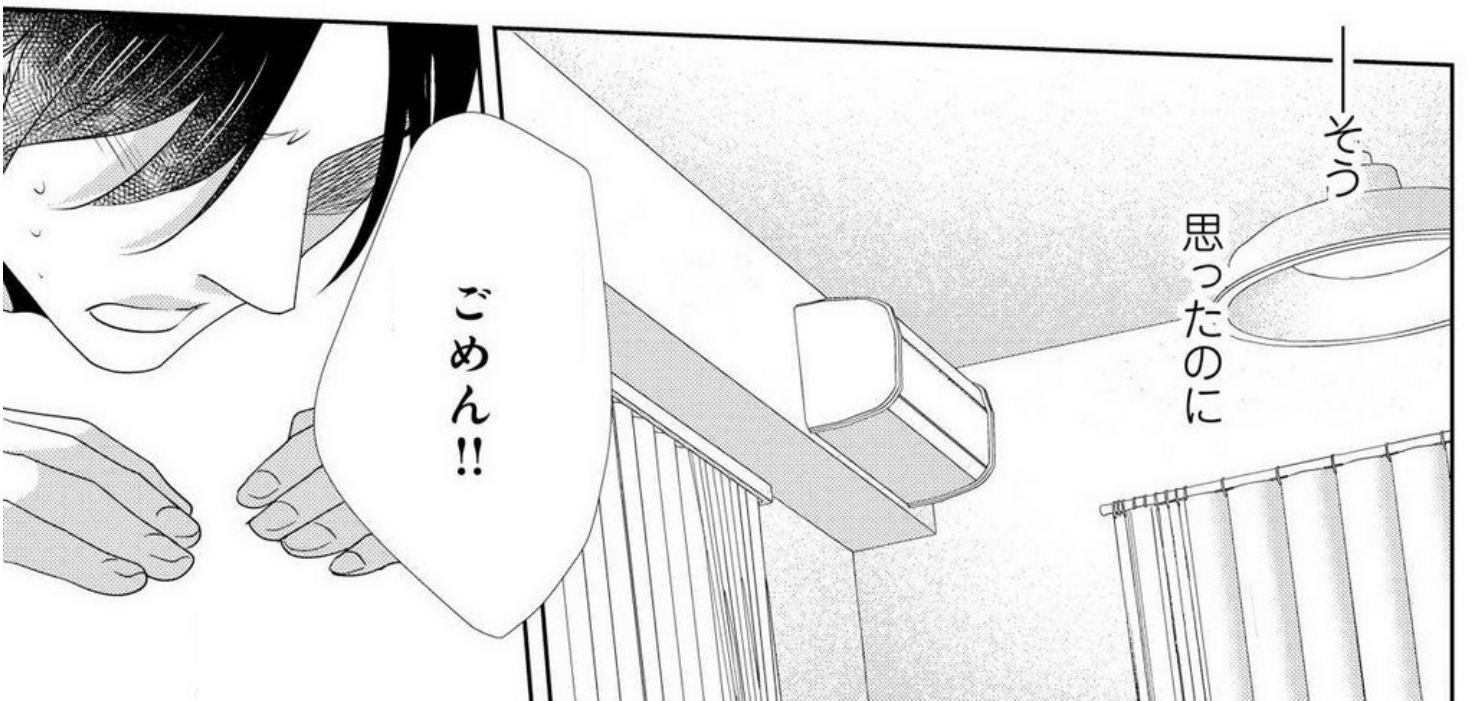

ッ
麻美ちゃん
…っ
うれしい…
麻美ちゃん
好きだよ


うん
私も…
――一晩中
触れ合った
お互いに
触っていない
ところなど
ないくらいに
ゆっくり
丁寧に
有樹らしい
優しさで
私を
ほぐし
挿入(はい)ってきた
ミッ
――ごめんね
痛いよね



やっと気持ちが
通じ合った
…その喜びの前で

どこかに吹き飛んで
しまったわ




昨晩のこと
忘れてほしい…!!
僕…
後悔しかないって顔
違う
男っていうのはやることしか
有樹はそんな男じゃ…
忘れろ——なんて
でも
そんな言葉
…っ
有樹の口から聞きたくなかった
わかった

Young Love Comic aya

【単話売】キミは可愛いケダモノ 1話

本崎月子

©TSUKIKO MOTOZAKI

デジタル版発行　2018年12月
初版発行　2018年12月

発行人　北脇信夫
編集人　中江陽奈

発行所　株式会社 宙(おおぞら)出版
http://corporate.ohzora.co.jp
最新の住所・電話番号は弊社HPをご覧ください。

本書はフィクションです。実在の人物、事件、団体には、いっさい関係ありません。

本書の一部、または全部を無断で複製・転載・上映・放送等することは、法律で定められた場合を除き、著者及び出版者の権利の侵害となります。


2
OHZORA SHUPPAN
Young Love Comic
aya




…あれ？
何コレ
赤い…
――あ
キスマークだ
昨晩
つけられた
他の場所にも
たくさん


有樹に――…
こんな「自分のもの」だとアピールするみたいな
独占欲の塊みたいな印
体じゅうにつけたクセに
忘れて欲しいってどういうこと!?
土下座までして!!
好きだと言って甘ったるい声で何度も私の名前を呼んでたのに
我慢の限界だって
ギリ…


そう言って
有樹は
私を抱いた
その想いと熱を
私は受け取って
幸せな時間を
過ごした
――それなのに
……
あんな必死な姿で
頼まれたら
「わかった」と
答えるしか
ないじゃない
…そんなこと
できるわけがないのに
体に残るのは
印(シルシ)だけじゃない
有樹の体温も
初めての痛みも
――疼(うず)きも


忘れられるわけがない――
おはよう麻美ちゃん
――!
どきん…っ
麻美ちゃん?
え
あ
おはよ


今日も寒いね
うん
仕事頑張ってね
ん
有樹…
普通だ
…あのさ


本当に何もなかったみたいに
今夜帰りは何時頃になる？
え？


うーん
ここのところ大きな事件抱えてないし
余程のことがなければ8時前には…
じゃあ夕食でもどう？
この間 仕事先の人にいいお店教えてもらったんだ
いいけど
じゃあ駅でその時間に待ってるね
忘れられないのも
意識しているのも
私だけ


なんだか
うん…
空しい
コインロッカー
Coin Lockers
証明写真
小型
タクシー
のりば
――なんて
思って
いたんだけど
え!?


お店って
ここ!?
うん
なんでこんな
お洒落な…
ていうか
高いんじゃないの?
珍しく"ネクタイ上着"てると思ったら!!
僕っ?
大丈夫
だよ
僕のおごり
だし
えっ!?
でも…っ
いいから
いいから!!
普段は割り勘
いつもは
居酒屋とか
カジュアルな
レストラン
なのに…
高級そうな上
カップルばっかり
じゃない!?
何あれ
夜景が素敵!!
料理も
っ
美味しい…っ



まるで
昨日の夜
みたいに

――どうして？

なかったことに
してくれって
言ったクセに

…動揺している
私に気付いて
ふざけてる？


――違う
有樹はそんな人間じゃない
…けど
わからなくなってきた…
――その日から
有樹の態度が明らかに変わった
え？待っててくれたの？
何時に帰れるかわからないって言ったのに
いま夜10時よ!?
次の休み映画？
いいよ
今まで選択肢になかった恋愛映画に誘うようになり
前まではなかった不規則な帰宅時間の私を送迎してくれるようになって
いつもはアクションものかファンタジー
パンフ


歩くときは
車道側
人ゴミでは
さり気なく
かばってくれて
――――
これは
以前からだけど
――何を
考えてるの？
ドッ
きゃっ
すみませ…
ひっ
いえ
ここは
変わって
ないか
うう…
またひって言われた…


日が経つにつれ霞んでいく
あの夜の有樹の熱
やっぱり
有樹の顔
好きだな…
なでなで
熱は忘れてしまっても
かわいい


あの日 自覚した
恋心は
ドクン
っ
早く行こう
映画始まっちゃう
消えては
くれない


ほら
有樹！
早く!!
うん


気持ちの
持って行き場が
見つからない
おい 片桐
ぼーー…
ここ
ドサッ
ボーッと
するな
ヒマなら
この書類に
目を通しとけ
あ
ハイ


えーと…
あれ？
この写真の二人…
ああそれなら
最近どこぞから流れて来たチンピラだ
麻薬の売人だよ
今目をつけているヤクザ事務所にも出入りしている
先日街中でカップルにからんでいるところを見かけました
典型的なチンピラって感じで…
そうか
まあ薬のルートも何も知らんようなヤツらだろうが
主婦とか学生に半ば無理矢理薬を売りつけていてタチが悪い
顔をちゃんと覚えておけ


――はい
私は
こういう奴らが
嫌いだ
真っ当に生きる人の
心の弱さにつけ入って
悪い道へと引きずり込む
つけ入られるほうが
悪いと言う人も
いるけれど
つけ入るほうが
悪いに決まってる
そもそも
弱いところの
ない人間なんて
きっといない



あれは――

有樹と
麻衣(いもうと)…

ユキ兄
人気あるよ

油断してると
取られるよ

というか
私が欲しい

そんな

まさか…ね


偶然会っただけだよね？
おかえり麻美ちゃん
ただいまー
おかえり
あー疲れたー
ただいまぁ
ふわ…
――！
有樹と同じせっけんの香り…


あら？
麻衣
お風呂は？
母
いらない
入ってきた
もう寝る～
お姉ちゃん
おやすみ――
じと…
え…
あの


どうしたの
麻美ちゃん
目つき
怖いよ
別にィ〜〜〜〜
昼間
麻衣と会ってた
でしょ
聞き込み中に
偶然見かけたん
だけど


――
昨日


え？
あ
うん
あれは


…
いや
えーと
見間違いじゃ
ない？
僕ずっと
家で仕事
してたし

――有樹が

顔をかくのは
嘘をついているとき

そんなもの
長いつき合い
だから知ってる

あっそ

私に言えない
ようなこと
してたんだ

同じ
シャンプーの
においさせて

えっ

あの

えっと

あんなふうに
楽しそうに
歩いて

そんなの
理由は一つに
決まってる

いいよもう

じゃあ私
仕事行くから

行って
らっしゃい

うん

う


有樹が
――遠い…
どうして嘘をつくの？
私とのことはなかったことにして
妹とデート――
私との高級な食事や映画とか送迎は
――罪悪感からとか？

聞きたいのに
聞けない

あ
お姉ちゃん
おかえり

決定的な
言葉を

聞いてよ
今日さー

ごめん

疲れてるから
風呂入って
すぐ寝る

え――
そっかー

私じゃない
誰かを選ぶ
――って

有樹の口から
聞くかもしれない

それが
怖い

怖くて
たまらない

私

ぼすっ

こんなに
弱かったんだ

私に気持ちが
ないとしても

有樹を
失いたくない

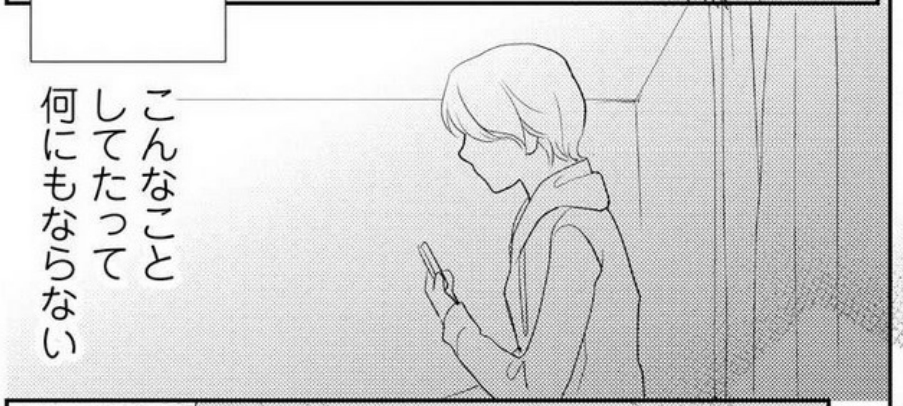
翌日から
朝 駅へと向かう
道順を変えた

帰りはひと駅前で
降りて
バスかタクシーか
歩き



連絡も全部
無視して

そうして
数日——



こんなこと
してたって
何にもならない



こんなふうに
うじうじして
いるのは
私らしくない

自分で
自分が
イヤになる

何より
有樹の姿を
見られないのが
辛い



伝えよう
私の気持ちを


前に
進まなきゃ
――はい
もしもし？
有樹？
今 駅の近くの
公園にいるん
だけど
出てこれない？
あ 麻美ちゃん？
ハアハア
公園？
ちょっと待っ
ハア
ハアハア
ちょっと ユキ兄～
何？
電話？
ハア
今ちょうど
ピッ！
何
今の


電話口から
麻衣の声
二人とも
荒い息
それは
つまり
え？
ま…
真っ最中
……？
じゃあ…
やっと覚悟を
決めたのに…っ
これは
キツイ…
ガッ
ガッ
お――や
いつかの
お姉さん
じゃーん
ぐうぜーん


なんつってー
じつは少し前に
駅でアンタを
見つけてさあ
一人になるタイミング
狙ってたんだよね
こないだ
コケにされた
お礼をしたくて
こいつら
……
アンタみたいな
生意気な女
ヒイヒイ言わすの
大好きでさあ
薬の売人
何
ふざけたこと
言って…っ！
おっとぉ


これ打って
ヤったら
死ぬほど気持ちイイ
って評判でさぁ
特別にタダで
打ってやるから
楽しませて
くれよ
クソ女
ヤバイ
どうしよう
腕も手も
押さえられて
――ッ
暴れんな
って
このッ
抵抗が
できない――


…なっ
麻美ちゃん!!
あ…


有樹の
においだ
大丈夫？
うん…
いってぇ…
おいコラ
見せつけてんじゃ
ねぇぞ
ちょっと――
ユキ兄～？
タッタッ
いきなり
スピード上げて
どうしたの？
タッタッ
この声
麻衣!?
来ちゃだめ!!
おーい
有樹いた？


いた…
あれ？
お姉ちゃん？
えっ？？

へー
その女性(ひと)
麻衣ちゃんの
お姉さんなんだ
？
何？
そいつら
おっ
悪者っ
ぽい
ナイフ
持ってんじゃん


わー
マッチョが
いっぱい
この二人
薬の売人なの
警察に
電話して
くれる？
了解～
お姉ちゃんも
大変だね～
謎のマッチョ軍団の
出現で
チンピラ二人は
戦意喪失
無事逮捕


へえ…
キックボクシング
……
だからあんな
いい体して…
うん
一年くらい前から
始めてたんだ
麻衣ちゃんは
ほんの先週からだよ
護身のためにって
元彼が
ストーカー化
したんだって
えっ


私 そんなの
相談受けて
ない……
始めてすぐ
同じ練習生の
マッチョな
彼氏ができて
その人が
撃退して
くれたって


そっか…
麻衣とは
最近ずっと
有樹とのこと
誤解して
ろくに話して
なかった
反省しなきゃ
――ていうか
なんで隠してたの？
キックボクシング
始めたこと
え
だって


ある日 突然
強くなったところ
見せて
驚かせ
たくて…
――は？
え？
え？
それだけ？
そうだよ
他に何があるの？
男のロマンだよ
好きな女の子に
カッコイイって
思われたい
頼れる男だって
思われたい
――…
好き…？


えっ
あ
…うん…
いつから？
こっ
子どもの頃から…
ずっと
じゃあなんで……
忘れて欲しい
なんて言ったの!?
それは…っ
順番を
間違えたと
言うか…
ちゃんと告白して
デートとか…
おつき合いして
それから…
ああいうことを
したかったのに…
酒の力を
借りて なんて
麻美ちゃんは
嫌いでしょ？
そんな
順番を守らない
不誠実な男
だからその
仕切り直しを
…って
ば


つかじゃないの!?
だからごめんって
仕切り直しなんてしなくていい


順番とか
どうでもいい
忘れられる
わけない
有樹に抱かれて
幸せだった
んっ
——オレも
本当は
あの夜以降
会うたび
麻美ちゃんを
抱きたくて
抱きたくて
たまらなかった
……
あ…っ


あン
胸
気持ちいい？
ん——
いい…っ
あ
は
大好きな
有樹の顔が
欲情した
ケモノに
変わる
体じゅうを
熱い舌が
這って
可愛い
麻美ちゃん
ん
あ
あ
食べられて
いるみたい
あ…っ
体が


熱くて
たまらない
ああっ……！
あ
だめ
ぐぷっ
ぐちゅっ
だめ
気持ちい
ぐちゅっ
じゅる
有樹…っ
はあ
はあ
もう…っ
いれて
いい？
…っ
うん
いいよ
順番どおりで
スマートで


ふ
…っ
ん…っ
そんなのより
ふっ
この
余裕のない
有樹がいい
ずっ…
ずっ
ぎちっ
ぐちゅっ
ぎち
ごめん…っ
まだ
痛いよね
あ…っ
う
いい…っ
から
ごめん
は…っ
もう
限界…っ!!
ズン…ッ!!
しなやかで
逞しい体全部で
私を欲しがって


ずっと
これから
っねえ
有樹…っ
結婚しよっか
！
――その後
いつまで経っても
根に持たれた
オレが先に
プロポーズ
したかったのに
って

Young Love Comic aya

【単話売】キミは可愛いケダモノ 2話

本崎月子

©TSUKIKO MOTOZAKI

デジタル版発行　2019年2月
初版発行　2019年2月

発行人　北脇信夫
編集人　中江陽奈

発行所　株式会社 宙(おおぞら)出版
http://corporate.ohzora.co.jp
最新の住所・電話番号は弊社HPをご覧ください。

本書はフィクションです。実在の人物、事件、団体には、いっさい関係ありません。

本書の一部、または全部を無断で複製・転載・上映・放送等することは、法律で定められた場合を除き、著者及び出版者の権利の侵害となります。